



南城市長 高江洲順達

「市民が元気でなければ『日本一元気なまち』とは言えない」。南城市健康課の高江洲順達課長は、市の国保一人当たり医療費の推移に頭をかかえる。

「日本一元気で魅力ある南城市」を目指し、健康を核としたツーリズムで地域活性化を目指す同

細かな対策で医療費抑制

だ。二〇〇五年度のゼロの土台になるとして市一六〇歳の同医療費は県民の健康づくりを精力的に進めていく。

平均が十五万二千六百五十一円に対し、南城市は十六万五百二十二円。七十五歳以上も県平均七十七万九千円、南城市八十下で糖尿病との予備軍いない。これまで説明を回り、血压などを測る取



843人が参加した「第1回南城市ウォーキング大会」でスタートする参加者=2006年10月8日、南城市文化センター

た。参加者の追跡調査では健康に関する意識の高まりや、ウォーキングサークルが結成されるなど地道な取り組みは市民の健康への意識を変えつづけられる。「医療費を下げるには画一的な対策では駄目。すぐには結果は出ないかもしれないが、市民のためにやるしかない」。健診の「熱い戦い」は続

心と体を美しく

○中●

三万五千円といずれも県の家を戸別訪問し、指導してこなかったから」と平均を上回っている。する。ほとんど事前の指摘する。きめ細かな説「いくら『南城市で元気になる』と言つても市 民が病気では説得力がない」。健康課は市民が健

市だが、国保一人当たり医療費は県内で高いほうが進める地域ツーリズム善法を指導している。治

「健診に来る人は関心

約束をとらない「アボな

「市民が元気でなければ『日本一元気なまち』とは言えない」。南城市

健康課の高江洲順達課長は、市の国保一人当たり医療費の推移に頭をかか

える。

「日本一元気で魅力ある南城市」を目指し、健康を核としたツーリズムで地域活性化を目指す同

市長 高江洲順達課長

だ。二〇〇五年度のゼロの土台になるとして市一六〇歳の同医療費は県民の健康づくりを精力的に進めていく。

市保健師の井上優子さんは「多くの人は自分のかなければ会えない」と危険信号が出ている人くりプロジェクト」で、新報移動編集局「南城 ウィーク」地域づくりフーラム(主催・南城

(玉城江梨子)

市、琉球新報社)は、十

三日(金)午後七時からオーラム(主催・南城

た。参加者の追跡調査では健康に関する意識の高まりや、ウォーキングサークルが結成されるなど地道な取り組みは市民の健康への意識を変えつつある。

「医療費を下げるには画一的な対策では駄目。すぐには結果は出ないかもしれないが、市民のためにやるしかない」。健

診の「熱い戦い」は続

新報
移動編集局
南城
ウイーク

心と体を美しく

○上●

惠まれた自然、豊かな地の基盤整備などを行つた「で感じる南城の力」。で育った農作物や海の幸の前者ではエコガイドの養成に加え、南城市的観光なども南城市的魅力だ。

早朝の世界遺産・斎場御獄。そこには岩や木々とひんやりとした空気が漂い、不思議な安心感に包まれる。「何かに守られているような、何かに包み込まれているよ

うな。南城市には心を落

ち着かせる、穏やかにす

る「何か」があるように思

う。女性誌などで「パワー

半、市では観光にまつわる二つの事業にはほぼ同時

「観光」で地域活性化を図る」と市は位置付けた。

「どうにもまねできな

い南城市らしい観光とは何か」。合併して一年

女性誌などで「パワーアクト」(日本代替・相補

域ツーリズムは、みんな

がそれぞれに大切な物を

新報移動編集局「南城

ウイーク」の地域づくり

フォーラム「健康を中心としたツーリズムを目指し、心と体を健康に、美しく」(南城市、琉球新報社主催)が十三日、南城市文化センター・シユガ

で行われた。市民に対しても

「地元の言葉だ。『地

でなく、市民に対しても

受けられた言葉だ。『地

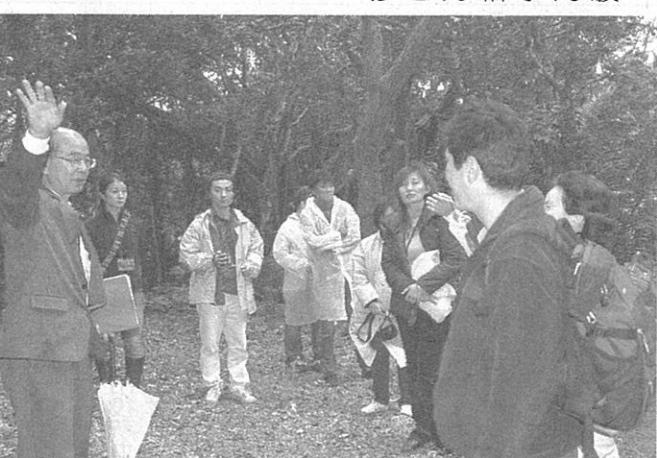
でなく、市民に対しても

受けられた言葉だ。『地

の意義は大きい。

「滞在交流型」の基盤整う

観光で地域活性化



南城市の史跡などを地元のガイドが案内したモニターツアー=2007年3月11日、南城市玉城の玉城城跡

二ターツアーパート参加者の感想だ。

女性誌などで「パワー

半、市では観光にまつわる二つの事業にはほぼ同時に取り組んだ。「体験滞協力の下、統合医療の拠点としての南城市的可能性を探っている。

多くの御獄、グスクなど域再生マネージャー事性を探っている。

南城市には沖縄の精神文業」。地域資源の再発見、人材育成、観光拠点になあれ」「五感プラス促進事業のコンサルタン

い南城市らしい観光とは何か」。合併して一年「一ジャ」が着任し、J ACT(日本代替・相補域ツーリズムは、みんながそれぞれに大切な物をトを務めた「カルティベス」。観光客にとってこのようにしながらつくるもイト」(旧有限会社開)から始まる南城の旅の大目にしながらつくるもの。そうすればそれは喜の開梨香社長は話す。窓口としてだけでなく、市民のさまざまな取り組みこれまでの取り組み、今後の課題を取材した。

「一人一人が南城の担い手。その拠点になるのがみ、人と人をつなぐ場との課題を取材した。

(玉城江梨子)